

日米豪印「Open RANセキュリティ報告書」の概要

- Open RAN※のセキュリティに対する関心が高まる中、**実証試験を含む客観的な調査・分析**を通じて、従来の一括調達型のRANと比較した場合における**Open RANの優位性、課題及び課題の克服可能性**を評価した約160ページの報告書。
- **日米豪印（クアッド）重要・新興技術作業部会**の「5Gサプライヤ多様化及びOpen RANに関する協力覚書」に基づく成果として2023年5月に公表。

※Open RAN：無線基地局の仕様をオープンかつ標準化することにより、様々なサプライヤの機器やシステムとの相互接続を可能とする無線アクセスネットワーク（RAN）

【Open RANの主な優位性・課題・課題の克服可能性】

優位性	セキュリティ関係	透明性向上に伴う リスク対策の容易化 等
	その他	特定のサプライヤに対する依存度の低下に伴う サプライチェーンリスク低減・ベンダロックイン回避 等
課題	本報告書により評価した セキュリティリスクの約4% が新たなインターフェースやコンポーネントに基づく Open RANに固有の （すなわち、従来の一括調達型のRANに存在しない）もの	
課題の克服可能性	標準仕様や本報告書に添付された チェックリスト ※のセキュリティ要件を満たすことによりOpen RANに固有の リスクを低減し、従来の一括調達型のRANと同等のセキュリティ を実現可能 【注】選択的なセキュリティ処置を有効化することで更に向上可能 ※本報告書の付録として109項目のセキュリティ要件等を掲載したチェックリスト（主としてMNOが安全な形でOpen RANを構築できているかどうかを検証するために利用することを想定）を添付。	



【上図】日米豪印の成果として公表された報告書の表紙

➡ 上記の**優位性・課題・課題の克服可能性**についての客観的な評価を踏まえれば、**Open RANの使用は、基本的には、従来の一括調達型のRANとの比較において、電気通信のセキュリティ状況を根本的に変えるものではない。**